全日本選手権で得たもの

早田 ひな
Hayata Hina
（日本生命）

早田は全日本選手権大会、女子団体戦（スポーツ8C）と混合ダブルスで悲しい準優勝、シングルスは、石川佳純（全農）に敗れるものの、五輪の代表権獲得に「大きく」貢献した。

たしかな自信を胸に

幸とそしそうホルックスからは想像できない闘志溢れるプレースタイルで、ファンを魅了する早田ひな。

早田は、千葉県の平均身長を大きく上回る165cmの長身から繰り出すフォアハンドドライブを武器に、2019年の世界選手権ブダペスト大会では、日本代表最年少メンバーとして出場し、女子団体戦の銅メダル獲得に貢献した。

その後も、着実に力をつけ、2021年の東京五輪では、女子団体戦の銀メダル獲得に貢献。今大会の準々決勝では、中国の王曼昱（ワンマンユー）選手に敗れたものの、世界ランキング2位の相手に対し、3ゲームを連取する場面もあった。

早田は、「自分のプレーに自信を持てるようになった」と話す。

「今大会は、自分のプレーに自信を持って臨めたことが、結果につながったと思います。ただ、まだまだ課題もたくさんあるので、それを克服していきたいです」

大会後の取材で、早田は笑顔を見せながらこう話した。

終わりの中の新たな始まり

全日本のシングルスで、早田は準決勝で、石川佳純（全農）に敗れた。

石川は、早田にとって、幼少期から憧れの存在であり、ともに日本代表として戦ってきた先輩でもある。

「石川選手に勝ちたい」という思いで臨んだ試合だったが、結果は3-4。

「石川選手に勝ちたいという気持ちが強すぎて、自分のプレーができなかった」

早田は、悔しさをにじませながら、こう振り返った。

初の全日本選手権タイトル

女子ダブルスでは、早田は伊藤美誠（スターツ）とペアを組んだ。

「伊藤選手の存在が大きく、一緒にプレーしたいと思っていたので、ペアを組めてうれしかった」

早田は、伊藤とのペアについてこう話す。

伊藤は、早田と同じ2001年生まれ。幼少期から、ともに日本代表として戦ってきた仲間だ。

「伊藤選手とは、ペアを組んだ時の息の合わせ方や、ここぞという時の声かけなど、お互いに分かっていることが多いので、やりやすかったです」

伊藤とのペアは、2019年の世界選手権ブダペスト大会以来、3年ぶりとなった。

「ブダペストの時は、伊藤選手に引っ張ってもらうことが多かったので、今回は自分がもっと引っ張っていきたいという気持ちで臨みました」

早田は、伊藤とのペアについてこう話す